

今回の東京大学 OC 及び企業大学訪問は私たちが本物と触れ合う機会の大きな 1 つだった。まず笹川平和財団の方々をはじめとするディレクトフォースでお会いした皆様、企業大学訪問でお会いした皆様、そして二高の OBOG の皆様に感謝したいと思う。本当にこの度は貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。

ディレクトフォースでは初めに田中信夫様よりお話を頂いた。IEA の話題で主にエネルギーについてだったがエネルギーについてだけでなく地球環境やエネルギー問題についても考えさせられるお話だった。地球温暖化に対し温度を下げるためにはいかに石油を減らしていかなければいけないかをグラフを交えての説明でよりわかりやすいものだった。同時に 2 度下げるためにここまで難しいものなのかが分かった。また、地球環境問題の話の中で原子力発電が大事であると仰っていたが現在福島原発をはじめ未だに多くの原発が再稼働されていないため日本はどうすべきなのだろうかと思った。そういった意味でエネルギーについて新たに考えるととてもよい機会を頂けたと感じている。田中様のお話の後には 4 人の方々とディスカッションした。1 人目の林様は、難民や移民について学んでいる方であった。インドシナ難民が 1970 年のとき 150 万人程いてその内 1 万人程日本でも受け入れた出来事を中心にお話をいただいた。今まで難民がいることは知っていたが、難民とは具体的にどういう人達のことか、なぜ難民となるのかを知らなかった。難民とは政治・宗教差別などによって生まれた人達であると仰っていたが、そういう政治や宗教間の違いから紛争なども起きていたり、ヨーロッパで難民の受け入れの話もニュースで聞くため私たちもよく知っておくべき問題だと思った。また、モンゴルで日本でいうところの高専の教え方で技術者を育てるプロジェクトをしているというお話もして頂いた。民間であるからこそできたプロジェクトなのだと思った。

2 人目の藤村様からは国内ではなく世界に視野を向けることのお話を頂いた。そのお話の中で物事を考える時に why を繰り返しそれを日記につけることで自分が何を知りたいのかがわかると仰っていたがそれは普段の生活や将来になりたいものを見つける上でとても重要なものだと思った。常に多くのことに疑問を持ち、探究心を持って生活しようと思う。

3 人目の角田様からは海洋制作についてお話を頂いた。私は海と聞くと海洋生物の方が中心だと思っていたが今回のディスカッションで海洋制作の素晴らしさを知ることができた。とても興味がわいたのでぜひ個人的に調べたいと思う。

4 人目の金子様からは外国でのマーケティングの話をお話を頂いた。相手のニーズや国際情勢の情報を入手し分析することが大事だと仰っていた。金子様のお話から事前に情報収集をしっかりすること、情報を十分に分析して行動することの大切さが分かった。また、創造性や発想力も求められるのだと知った。4 人の皆さんに共通することは、分野は異なっても海外に視野を向けていることだと思った。私は大学はどうだ、将来の職業はなんだとよく考えていたがいずれも日本ですることしか考えていなかった。海外に留学したり、海外で働くという選択も視野に入れたと思った。海外の人の文化の違いや価値観の違い、それらを知ることで自分のなりたいたい道も見えてくるのかもしれない。そういった意味で将来の道を考えらるととてもよい機会だった。貴重なお話を聞かせて頂き本当にありがとうございました。

続いての企業大学訪問では、国立がん研究センター研究所ゲノム生物学分野の皆様からお話を聞かせて頂いた。先生方のこれまでのお話や研究テーマについてお話を受け、質問をさせて頂いた。

河野先生のお話ではゲノムの変化は人それぞれ異なることや癌の治療をオーダーメイドにすることで治療効果をより上げることができるのだと伺った。高橋先生のお話の中で卵巣明細胞がんについて教えて頂いた。日本人に多く、既存の抗がん剤が効きにくいと仰っていたが正直あまり実感はわからないが、危険な癌であると思った。そのためにも研究し、新たな抗がん剤を作ることが求められているのだと分かった。また、高橋先生と吉田先生のお話の中に医学部受験専門予備校 YMS というものがあったが、今でも多くの医学生を出していると知った。

角南先生からは個別化の方法についてや女性としての苦勞についてお話を聞かせて頂いた。今でもやはり女性

の医者や研究者は少ないと思うため今後より多くの女性が医学に携われるといいなと思った。

菅家先生からはシンガポールやベトナムでのお話や乳がんについて伺った。若年性乳がんはとても発見しにくいという話を聞いた。乳がんと聞くと割と40~50代くらいの女性に多いイメージだったが若年性乳がんだと見つけにくい分悪化しやすいのかもしれないと思った。テレビでも乳がんについては聞くため、若年性乳がんの方を素早く発見することが今求められているのだと思った。

中奥先生からはがん治療に抵抗性を示すメカニズムについてお話を聞いた。少し専門的なお話もあったがとても興味深かった。EGFR変異肺がんの二次変異のお話は特に難しい分、もっと知りたいと思った。次世代の新しい阻害剤を作られることが必要なのだと思った。皆様にお話を伺った後に研究施設を少し見せて頂いた。今回の訪問では医学の道に進みたいと改めて強く思ったことに加えて、医学の中でも研究職につくか医者を目指すか、また医学の中でもどの分野を目指すかについて考えることができた。今までは漠然と医学を目指したいと思っていたため自分の中でもっと具体的に将来を考えたいと思う。改めて国立がん研究センター研究所ゲノム生物学分野の皆様、この度はお忙しい中、私たちのために時間を割いてお話をさせて頂きありがとうございました。

夜の二高OBOGの皆さんとのディスカッションでは先輩方の頃の二高の様子や大学受験の苦勞、大学での苦勞、勉強法などについて多く聞かせていただくことができた。どの先輩も言っていたことは、日頃の数英の勉強についてだった。学校よりペースを上げてレベルの高いものに手をつけたり、教科書内容を完璧にしたりなど基本をしっかりと定着させ、レベルを上げていくことが大切なのだとわかった。また、社会や地理の対策として日頃から新聞を読むことが大事だと言われた。普段読むことはないが、少しずつ目を通して行きたいと思う。数英についても日々の積み重ねを大事にして予習復習を定着し、学校のペースより早く勉強できるようにしたい。また、進学先についても県内だけに視野を狭めずに他県の情報も把握しようと思う。私たちのために来てとてもためになる話を聞かせて頂き本当にありがとうございました。

最終日は東大のOCに行き、様々なことを学んだ。午前中は健康と医学の博物館を訪れた。医学の偉人たちの功績や様々な病気の全容が多く展示されていた。世界初の人工皮膚がんの発生に成功した山極勝三郎という人や世界初の内臓に人工的にがんを発生させた吉田富三という人を始め多くの方のやってきたことについて詳しく書かれていた。過去にこうした人々が新たな発見をしてきたことで今の現代医療があるのだと感じた。企業大学訪問のことも含め、研究職について医学を学ぶ道も目指したいと思う。また、インフルエンザやノロウイルス、デング熱の原因や症状、概要についても学ぶことができた。東京大学にこれだからこそ学ぶことのできたことだったと思った。午後は医学部と薬学部の説明会に参加した。東大の薬学部では生命、薬の専門家を養成していて学生の多くが大学院へ行くのだと聞いた。現在病気に対して薬が多々できているが、それでもアルツハイマーや肝硬変など未だに多くの病気を治す薬は作られていない。これから高齢者の割合が増えていく中でこうした病気への特効薬が作られていくことがとても重要だと思う。医学部では学生が大きくわけて大学院生となる者と初期研修医となる者が多くと仰っていた。東大の医学生には、医学知識や臨床技能はもちろんコミュニケーション能力やプロフェッショナルリズムが求められているのだそうだ。

今回のOCでは、東大の素晴らしさを改めて知るだけでなく、医学部、薬学部などの進路や目指す道を知ることが出来たとても貴重な経験になった。

2日間と短い時間だったが、これからの人生に会うことのできないような方々と出会い、貴重なお話を伺い、貴重な体験をできたと思う。この2日間を通してより将来の目標が鮮明かつ具体的に見えてきたと感じている。これからの2年間で自分の将来の道を決めて歩んでいきたい。そのためには今は基礎を固め日頃からの勉強に精を出していこうと思う。